



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2023
No.609
5月号

◎教団方針

ひろげよう浄霊の輪
ひろげよう仲間の輪
築き上げよう愛と活気あふれる教団を

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

―病―

病とは 身魂浄むるものなれば

此上なき神の恵みなりけり

おほけなくも 神の僕に選ばれし

幸も病きが縁なりけり

病きは 人造るもの健康は

神造るものと知れよ世人はも



―浄霊業―

浄霊は救いの業であると同時に自己の修養の道としての意義を持っています。

他の宗教ではいろいろな修行がありますが本教の場合には浄霊が信徒のなさねばならない「行」としてまず第一にとりあげられます。

神言霊

『浄霊と幸福』

本教浄霊は病気を治すのが目的のようになつてゐるが、本当からいうとそれだけではないので、もっと大きな意味があることを書いてみるが、一言にしていえば浄霊とは幸福を生む方法である。というのは単に病気といつても勿論浄化であり、その因は霊の曇りの解消作用であるのは、いまさらいうまでもないが、そればかりではなく、人間一切の苦悩のなくなる作用である。

したがって貧乏も争いも浄化の表れで、私のいう病貧争ことごとくがそれである。ところが一切の浄化作用のなかで最も重要なのが病気であつて、これは生命に関するものであるからで、したがって病気さえ解決できれば、貧乏も争いも自然に解決されるのは当然である。勿論そうなることが幸福の根本であるから、不幸の原因はまったく霊

の曇りであるのは、あまりにも明らかである。それを簡単にして確実な方法こそ、霊の曇りの解消法としての浄霊であるから、最初に述べたごとく浄霊は独り病気のみではないことである。

人間の体は現界に呼吸しており、霊は霊界に生きている以上、霊界の状態がそのまま霊身に影響し、それが肉体に映るのであるから、人間の運命のその根本は霊界にあるのである。そうして霊界も現界と等しく、上中下多数の段階になつており、これを分ければ大別して三段階になつてゐる。その内の一段が六十階、それが三分され二十段ずつになつて、合計百八十一階級である。

そうして一は主神であるから、主神以外はいかなる神様でも、百八十の中のどれかの段階におられるのである。右は経をいったものであるが、今度は緯をいってみると、緯の広がりの一一つ一つの段が、地獄から天国までそれぞれ異なつてゐるから、仮に現在自分の霊とすると、下の六十段のそのまた下の二十段にゐる場合は、最低地獄に相応するから、これ以上ないほどの苦悩に満ちた世界で、これが体に映つて苦境のどん底にあるわけである。またその上の

二十段に上ると幾分楽になり、そのまた上の二十段はもっとよくなるというように、それぞれの段階一段一段その苦楽の違ふのは勿論である。それで右のごとき下の六十段を突破すると、今度は中の段階になる。すなわち中有界、八衢であるから、現界に相応するので、そのまた中から上の六十段へ入ると、こは天国であるから天人の地位となり、歓喜悦楽の境遇となるのである。

右のように、その人のゐる段階そのまま通りが運命となるのだから、一段でも上に行くよう心がけるべきで、上になるほどますます苦しい忌まわしいことがなくなり、幸福は増すのである。つまり浄化すべき苦痛の必要がなくなるからである。だから人間は霊身が下段にある間は、どんなに智慧を振るい、骨を折つても駄目である。というのはこれが神の天則であつて霊主体従の法則も厳として冒すことができないからである。故に幸福になるにはどうしても霊を浄めて軽くし、少しでも上位になるよう心がくべきで、それ以外に方は絶対がないので、ここに浄霊の大いなる意義があるのである。

(昭和二十七年三月二十五日)

春季大祭・春のみたままつり・感謝祭 挨拶

会長 大沼 泰彦

本日は令和五年 春季大祭・春のみたままつり、各布教拠点の感謝祭誠にありがとうございます。

春めいてきましたね。春を感じるのは、気温もそうですけど、なんといっても桜の開花ですね。桜は木咲耶姫であると明主様が仰っていますが、木花咲耶姫は富士山に宿り、全国の浅間神社主宰神としてお祀りされています。

日本は春夏秋冬の季節があつて、暑さ寒さも彼岸からで、この彼岸時期はバランスが取れて一番いい時ですね。

明主様は「彼岸のときは太陽が冬至と夏至の真ん中をまわるときで、ちょうどいいときなんです。で、このちょうどいいというのが天国、極楽なんです。つまり理想世界のことで、彼岸の岸というのは「理想郷」の意味でしょうね。で、そのときお墓参りをするということで、まあちょうどいいときに先祖を祀るというわけでこれは理屈なしにいいことですね。」と仰つて、それを教え

として、救いの光教団では「彼岸のみたままつり」としてご先祖様のご供養の御祭りをお仕えさせて頂いています。また、ご家庭でもご仏壇でお膳部を上げて、御供養の御祭りをお仕えして、お墓参りも出かけてお墓周りを掃除して浄めて、善言讃詞、神歌を上げて御供養させていただければ御先祖様たちもお喜びになると思います。

祭典の中で、春季大祭祝詞を奏上いたしました。天津祝詞、善言讃詞も祝詞ですが、春季大祭祝詞の内容は何を唱えているのかを大まかにお話したいと思います。

祝詞とは「祝いの言葉をつかさどる」と書きますが、奏上するというのはどういう意味があるかというと、「神からの御守護、御神徳に対する称辞（たたえこと）という言葉。賛辞」



挨拶を述べられる大沼会長
祝詞の解説はとても新鮮で
興味深く拝聴させて頂きました。

言い替えると「神様からの御守護に対し感謝を述べる」といったほうが分かりやすいですね。

そして、新たな恩顧（みたまのしづか）へ神から受ける恩や徳を祈願するという意味があります。文章は文語体（平安時代からの書き言葉）になっているので、意味が分かりにくいですが、

どこに、どんな神様がいらっしゃるから始まり。救いの光教団 東京本部 御神殿に祀られている、大光明、おしえみおや光の明主の神の前で 光守 大沼祐子 が祭典を仕えますと、まずお断りをします。

続いて八十日はあれども、多くの日があるけれども、春の彼岸を選んで感謝の心を持って、春季大祭・春のみたままつりを迎えました。「春の大御祭典に幽世の大神知ろし食す垂乳根の御先祖様」

春の大御祭典に幽世の大神が承知している霊界のご先祖様、永代慰霊を申し込まれた御霊様、新霊様、供養のお申し込みをされた御霊様、そして水子の御霊様たちを祖霊殿の霊聖に御招魂させていただいて、現世の子孫と共に祭典をお仕えいたします。と、ご奉告いたします。

「光守をはじめて遠近に御光仰ぐ数多の信徒集りて」
光守様を始めとして遠く、近くの数多くの信徒が集まって春彼岸の十九日、御神前に御神酒、海の幸、山の幸などの数々の飲食物を山盛りに捧げて、みんなで心の底より祝いの言葉を述べて、祈り、感謝を捧げる様を良しとして、お聞きください。

続いて、神様へのお誓いになります。教団方針を心に深く頂いて、教団綱領を守って行動し、御神業の完成を光守様を先頭に、教師、信徒とともに力を合わせ、心を一つにして、

「新しい教えの児等を心に深く覚悟（おぼい）定めて」
入信を許される方々のことを思い、覚悟して（迷いを去り、真実の道理をさとること）表現を変えると、「入信のお導きをさせていただくことを、我々の使命とします」ということ。

最後に、明主様の御心のままに、守られながら只管に全身全霊をかけて、この病闘争の蔓延している世の中で、頂き、授ける浄霊を実践します。

教会 光導所が栄えて、心身ともに健康で、大神様の御用が許されますように、そして弥勒の世、理想世界が一日も早く築き上げられますようにお願い申し上げます。

と、いう事柄を大神様、明主様にお捧げして祭典をお仕えさせていただいております。これが祝詞内容です。

我が国は、「言霊の幸う国」とも称されて、言霊に対する信仰が見られます。言葉には霊力が宿り、口に出されて述べるにより、この霊力が發揮されると考えられています。

令和5年春季大祭 春のみたままつり執行 誠心の祖霊供養 東京本部 3月19日(日)



玉串奉奠を行う右から清水信徒総代、山田責任役員、小松夫妻(東京教会)



「おことば」を述べられる光守様



優しい色合いののぼり旗をバックに全国の信徒の皆さんに「浄霊体験談」の提供を呼び掛ける戸塚教師補
軟らかき春風が吹くが如く、やさしく、しかも力強く語り掛ける
その姿勢には新しい時代を予感させられた。



光守様と信徒を代表して献花を行った
高井みよ子さん(浜松教会)



盛り沢山の山海の美味しい品々を供えて
懇ろな慰霊が行われた。

祝詞には、こうした言霊に対する信仰が根底にあるため、一字一句に流麗で荘厳な言い回しを用いて、間違えることがないように慎重に奏上させていただいています。

光守様は、日々信徒の皆様の幸せを祈って下さいます。深い愛のお祈りの中に、この度お二人の入信のお祈りを頂きました。嬉しく、ありがたいことです。

私たちも、日々の参拝に感謝、誓い、祈願などの内容を入れて祈っていただくと思いいます。

御守護奉告

甲斐例子（教師補）

私はストレスが原因と思われる「突発性難聴」患、ほぼ完治したのでその経過をお話しさせていただきます。

二月七日、お休みの日でした。家事を済ませてひと息ついていようと、流していたお気に入りの音楽が聞きづらいことに気がきました。左の耳でした。普通ではないと感じ、今日のうちに耳鼻科で診察してもらおうと思い、地元病院にたびたび診察しました。病名は「突発性難聴」とされました。

この病気を急を要するというので、大学病院を紹介され、翌二月八日、そこで診察を受けました。三種類の薬を処方され、その内一種は副作用も多いため、ステロイド剤でした。どうしても服用したくありませんでしたので、それだけは断りました。そして「治りますか？」の問いには「三分の一が治り、三分の一がそのままだ、あとの三分の一は更に悪化」という谷底に落とされたような答え。診察を終え、午後は教会に行き、御用をして御浄霊をいただき光守様にこの先どうするべきかを相談させていただきました。

「薬は服用せずに、御浄霊一本で完治を目指す」という結論になり、それから御浄霊を専念しました。その後も症状は悪化し、大きな耳鳴りと耳の中に水が入って膜が張っているような症状、三人以上の人達が同時に話すと何を話しているかわからず、受話機の音も聞こえない。

御用にも支障をきたし、精神的にも追いつめられました。二月十二日このような状態のとき、ある信徒さんが教会を訪れ、私が御浄霊をさせていただきます。信徒さんには、私の耳の状態は伏せていたのですが、個人的にも信頼できる方でしたので、耳のことを打ち明けました。

彼女はこう言ってくれました。「セカンドオピニオンがあってもいいのでは？」そして以前、彼女が通院していた病院を教えてくださいました。この病院は信仰のある方にも理解を示して下さる先生がいっぱいいるということでした。早速ネットですその先生の経歴を調べたところ、是非みていただきたいという思いがつのり、翌十三日その先生の診察を受けました。

この病気はやはり発症から二週間以内に治療しないと手遅れになると言われましたが、それでも

治療をしぶっている私に対して、「治療を受けて治らなかつたとしても、治療を受けなくて治らなかつた時の方が、後悔しますよ。今、貴女は天から体を休めなさいと言われてるようなもの。私だったらこの高度突発性難聴には耐えられませんか」と。私の心に寄りそいながら、背中を押してくださる言葉を投げかけられて入院して治療する決心、決断をしました。

翌十四日、難聴の三つの治療法すべてが受けられる都立病院にかけ込み、三つの治療すべてに耐えられるかの検査を経て、翌十五日から入院となりました。十五日、十六日とステロイド、高気圧酸素治療のあと聴力検査をしたところ、早速改善がみられ、担当医も驚くばかり。三日目の十七日は、星状神経ブロックという治療を受け、その担当医からも、私の回復ぶりを驚かされる始末でした。四日、五日目は、土日のため、点滴一時間。六日目の二十日は、三つの治療すべて午後入院して、二回目の聴力検査をしたところ、低音・中音は完全に元に戻り、高音だけは完全ではないが、正常範囲ということで退院することができました。

三月六日に再検査を受け、完治。その日で治療をすべて終えました。

ふり返りますと、このように短期間で済んだことは、入院する一週間前から、毎日、昼間、夜と毎日御浄霊をいただいたこと信徒さんからの導きによるよい先生とのめぐり合い。入院中も、たくさんの方々の、想定の御浄霊をいただいたこと、光守様の深いお祈りをいただいたこと、また母の教えを守り幼少の頃から薬をほとんど体内に入れていなかったことが、このようなよい結果を招いたのだと、つくづく感謝をしています。ちなみに退院時に処方された、たくさんの方々の薬は一切服用せず御浄霊をいただく日々でした。

救いの光教団の信徒であった事、母の娘であった事に深く感謝した浄化でした。ありがとうございました。



甲斐例子さん(左)

『迷いぬく努力』 光守様のおことば

甲斐さんを突然襲った病^{やまい}。谷底に突き落とされる程の苦難からの一ヶ月間、その浄化の過程をぜひ皆さま方にも知っていただきたい。また何人かの医師に徹底的に何回にもわたり質問をくり返す、この様子をとペンを取ってもらいました。

もちろん背景には、彼女の浄霊に対する絶対的な信頼感があつたにせよ「迷いぬく努力」を怠らなかったからこそ出来る「迷いなき行動」には、ただただ驚き、

その姿勢は、教団も見習うべきものを感じさせられます。

彼女は、きつともがきにもがいたに違いありません。多くの信徒の皆さんの「御浄霊」と、想念の浄霊を頂いたと聞いております。

日頃、教会に頻繁に御参拝に見えるお母様の厚き御守護もあつたことでしょう。皆さん、本当に有りがとうございました。よかつたわね!! 甲斐さん、私もとても嬉しい!!

感謝奉告

『神成郷光明殿須玉総本部での思い出』



令和四年の十二月二十三日をもって、神成郷光明殿須玉総本部が終い納めとなりました。

神成郷での最後の大御祭典に夫婦で参拝とご奉仕をお許しいただきました。当日は、大雪が予想されていきましたので、いつもより早く、午前三時に光導所に参拝して、出発をしました。車には、大渋滞に会うことも予想して、飲み物、食料、毛布、スコップ等積み込んで須玉に向かいました。お陰様で雪も無く、順調に、無事に本部に着くことが出来ました。有難う御座いました。

平成九年の十月十八日のめでたき竣成祭以来、令和四年の明主様御聖誕祭までの間に、神成郷光明殿での数々の参拝・ご奉仕をお許しいただきました。有難う御座いました。

これからの教団を担う諸君達へ

『教団四十年 私の信念』

岡田 千恵子 (東京教会所属)

四十年前入信を許されましたが、その動機として明主様の教えを真理と確信しながらも、この教えが机上の空論でないことを確かめるしかないという思いもありましたし、いくら疑っても良いということも大きな要因となりました。入信後数ヶ月で不順だった生理が改善され次女を授かりました。

その後次女は私が入信前に使った多量の抗生物質や消毒液、痛み止め等の為重症のアトピー性皮膚炎の浄化で痒みで夜も眠れない生活が十年以上続きました。学校生活もままならない中、不思議な事に親子共々気力だけは衰える事はなく昼夜問わず襲う痒みと、身体中から噴き出る膿との闘いに耐える事ができました。私自身もいくつもの持病をかかえていましたが市原の社宅住いで東京教会の参拝は許されず御浄霊はほとんど頂けませんでした。た

辻井 健蔵 (滋賀教会八幡光導所)

て私も二回の参加をさせて頂き、無事そこでこのいいタイムにての完走が出来、記念品も頂きました。完走後の地元の人々からの飲み物や御馳走も頂き、楽しい思い出となっています。有難う御座いました。

研修会等では、須玉の地元の人々への布教配布活動にも参加のお許しをいただき、ご浄霊のお取次ぎもさせて頂くことも出来て、貴重な経験をさせて頂きました。

こうして、他の教会の信徒様方との交流も数多くあつて、多くの信徒様と親しくなり、楽しく、参拝やご奉仕に参加出来ました。有難う御座いました。

私達、信徒は光明様、明主様より数えきれない数々の御守護と御蔭をいただいております。そのご恩に報わけて頂く事の二つが「ご奉仕」であるとおもいます。頂いております御恩の万分の一にも足りませんが、真心からの感謝の奉仕は、神様は何倍にでもしてお受け取り下さるのことでございます。神様に喜び頂ける信徒とならせて頂けるようにこれからも精進を重ねて参りたいと思います。

光明様、明主様、誠にありがとうございます。光守様、会長先生、信徒の皆様方、宜しくご指導ご鞭撻のほどをお願い致します。有難う御座いました。

だ何故か次々未信者の方を与えられ訳もわからずお取り次ぎさせて頂いているうちに何度も浄化をくり返しながらか持病は楽になっていきました。特に重度の痔病は手術を免れ自然には完治しました。東京に転勤が決まった途端今まで使った薬毒が患部から一気に噴き出はじめた事は本当に驚きでした。東京教会の近くに移ることでの前浄化だったようです。その後薬毒を出して頂く浄化は十年は厳しいものでしたが徐々に軽くなっていきました。

「病気の原因は薬ですから身体から薬を抜けば病気は起らないのです。薬を出す作用が病気です。これで(御浄霊) やつてもすっかり取りきることではできませんが、だいたい取るには二、三十年かかります。普通では何十年かかるかわかりません。ですからこ

うやる(浄霊) は薬を取る方法です。それを知らないで今はみんな薬を飲んでいますが危ない話です。それで薬によって病人を作っているのですが、一面薬ということもやっぱり必要があつて神様が作つてあるのです」このお言葉を現代の人々にどれだけ理解してもらえるか大いに疑問ですが、少しずつ身に染み

てくる時代になってきている気がします。この三年で「邪神はジャーナリストやインテリにかかると」というお言葉が表面化し、真実が暴露されつつあります。「日本人は誇りを持って世界中心となるべく使命に気づくように」と、明主様の奥深い尊い思想を世間の人々に伝える使命があるという強い信念を持つて御用をさせて頂きたいと思ひます。

辻井さんは長年、滋賀教会の信徒代表をされておられ、教会の中心的存在です。ご自身が営む和菓子屋は教会祭典日、教会行事に合わせて休業日とされるなど、神様中心の生活をされておられます。教会はもとより感謝奉告でもお分かりのように須玉総本部での祭典も、夫婦でご奉仕されるなど、とても熱心に御用に取り組んでおられます。滋賀から須玉までの自家用車での移動は大変な苦勞であつた事と思います。しかし、そのような中

でも疲れた様子も見せずにご奉仕される姿は私にも印象深いものであります。無事故で順調に御用を果たすことが出来た事は、偏に光明様、明主様の御守護であると思ひます。私たちは、「感謝報恩」という事を学ばせていただいております。ご奉仕は、常日頃の御守護に感謝し、神様に御恩返しをさせて頂く意味もあります。この繰り返し自身が自身の向上にもつながると思ひますので、自分にできる御用を見つけて神様の御恩に報いたいものであります。

一連の痛みの浄化を経て今さらながらに痛みは浄化作用であると同時に浄血作用でもあり腎臓の機能を活発にしてくれることを実感しました。御浄霊は腎臓医療であると教えられていますがつい心配が先にたち対症療法を受けることで腎臓の働きは鈍ってしまつのだと感じました。

特に痛みの浄化は辛いものですが乗り越えられる事で、身体の中では計り知れないプラスの作用があるように思ひます。私の父は、生前「枯れ木が朽ちるように逝きたい」と言っておりましてので、できればその望みを叶えさせてあげたいと思つておりました。床に伏して一ヶ月口から食べ物を取り、水分を取り、腎臓の働きが弱つてくると水分の必要もなくなるようで、最後はガーゼで包んだ氷を乾いた口に含ませつつ、少しずつ枯れ木が朽ちるという言葉通り、引き潮の時間に旅立ちました。本人の信念が強くなければなかなか実現できることではありませんが、四人の親を看取つた中で自然死の在り方を考えられました。



“浄霊フリー DAY”での岡田千恵子さん(中央前から2人目)



岡田茂吉 の 自然農法

四月 水田での準備

春を迎え伊那地域も温かくなってきた四月上旬。凍結していた地面もすっかり柔らかくなりましたので、トラクターを使用し「春おこし」を行いました。

「春おこし」とは四月～五月にかけて田畑を耕す作業の事です。これにより土中に空気が沢山入り、土が柔らかくなり農作物の根が張りやすくなる。また、土壌微生物の働きを活発化させて、農作物の生長を促進させるという効果があります。一般ではその時に肥料をしつかり播きますが、伊那農場ではもちろん行いません。

この「春おこし」に似た作業で「秋おこし」というものがあります。こちらは稲刈り後、冬を迎える前に水田を耕す作業で、効果も春おこしとほぼ同じなのですが、稲刈り後に施す稲ワラなどの有機物を翌年の春までに早めに分解させるという理由もあります。この作業は伊那農場では行っておりません。一般農法のように有機物を施す必要が無いのと、寒冷地域で冬場に地面が凍結するため、秋に耕してしまうと土中深くの微生物が弱ってしまうのではと考えているからです。

「春おこし」の他にも、その作業の前に水田の土手に土を盛り付ける「畔（あぜ）塗り」という作業を、近隣の農家の方にお願ひし、専用の機械で行って頂きました。これにより水をしっかりと溜め込むことが出来ます。田畑での本格的な作業が始まりますので、しっかりと準備を整えました。



——寿々喜亭（岡谷分教会内光導所）の浄霊繁盛記——

プレイバック『神成』

昭和五十年十月より抜粋

毎日二十名の浄霊者

現在、寿々喜亭には、毎朝七時半から昼の一時すぎまで二十名前後の人が、浄霊を頂きにきているという盛況ぶり。

昨年の五月三十一日から記している「浄霊日記」メモには、毎日訪れる方の名前がピッタリと記入されている。

ちなみに八月のある頁をみると、八日十八名、九日二十名、十日二十三名、十一日二十一名……と浄霊者名と簡単な症状が記されている。当初はカルテ式にメモされていたが、最近はずっと忙しくてメモが来ないから、初めての方を初めに○を記して表し、二度目を▼で区別しているとのこと。この月の延べ浄霊者は、四百七十五名。

このうち新規の浄霊者は四十四名で、八月の教修日には、九名の方が入信し、感謝祭には三十名の方が参拝された。

最近では、豊野正雄（六十一歳）さんという助手を得て、ますます活況を呈している。その豊野さんは、国鉄を退職した現在、他人様のために役にたつのなら……というこで出張浄霊で、東奔西走している。正に生き甲斐ある第二の人生を送っている。

知らない人が見たら、以前に每晚一升、二升もお酒を飲んでた方とは、とても信じられないだろう。お嫁さんの豊野和子さんは「一ヶ月にすれば、五斗から六斗位は飲んでたでしよ」というから、開いた口がふさがらない。それが浄霊を頂くようになってから、晩酌は銚子で一本がいいところというから全く不思議だ。と同時にこれまでの暗かった家庭内が一掃され、光明輝く笑いの渦につつまれた家庭に生まれかわったのだから、大神様の神秘霊妙なるお働きには、言うすべを知らない。

その豊野さんは、浄霊をされている内山さんら七名の方をグループでお導きされたのである。それは、八月三十一日であった。（原文のまま）

『たんかんの遺言』

先日、自宅にたんかんが届きました。たんかんは、ボンカンとネーブルの自然交配種で大きさは不揃い、見栄えもよくありませんが、甘味と酸味のバランスが絶妙な私のお気に入りのお菓子です。

驚くことに送り主は昨年八月十二日帰幽された京都黎明教会の多田歌恵さん、彼女の訃報を知ってから数ヶ月の脱力感はまだ記憶に新しい。

歌恵さんとは同じ時代、同じ戦火のなかをくぐり抜けてきた仲間。子供のいない私を親身になって心配してくれ、誰にも話すことができない内容も時間をかけて話した心許せる唯一の友でした。

歌恵さんは毎年、この時期に無施肥無農薬の奄美大島産たんかんを送ってくれていました。早速携帯を取り、妹の光子さんにお礼をのべたところ「姉の遺言で毎年大沼さんにたんかんを送るように」とあったそうです。歌恵さんのお人柄のように、甘味と酸味

光守の思い

のバランスのよい粋な計らいでした。

『私もかくありたい』

そう思わずにはいられませんでした。「たんかん」を見るたびに、もう居ないあなたのことを思い出し感傷に浸ってしまいます。

（番外編）

『九十一歳からの社会勉強』

浜松教会訪問の朝、自宅を出発すると早速カーナビから「携帯電話は忘れてはございませんが？」と、人工音声のアナウンス。慣れない頃は「あーうるさいわ」と人工音声に拒否反応だった私も、今では「大丈夫、有難う、忘れてはいませんよ」と答える始末。カーナビの優しい案内で浜松インスターを降り、時間調整のため、ファミリーレストランで朝食（初めてのことに）。連れの信徒さんが注文のため店員さんと呼ばますと、「注文は卓上のタブレットで」と言われる始末。そこで驚きの体験をしましたので聞いて下さい。



配膳ロボットとの記念撮影

席で待っていますとなんとロボットの音が料理を席まで運んで来たんです。ビックリした私は「ヒャー!!」と大きな奇声をあげてしまい、店内にいたお客さんは一斉に私に注目。完全に私は玉手箱を開けた浦島太郎状態。神成教会に嫁いでは、自宅と教会たまに病院関係位。大いに反省しました。時代に置いていかねように、少しでも古い固定観念をすて、若い方の気持ちで理解できるようにと、遅すぎますが九十一歳から日々勉強。



「信徒さんが心安らかに浄霊を受けられますように」との願いを込めてお浄めの儀を執り行いました。

「御願ひ」
<https://johrei-sukui.com>

——浄霊体験をお聞かせ下さい——

『神成』四月号で御案内の通り、三月二十五日に一般の方向けに浄霊を知って頂くこと、体験して頂くことに特化したホームページを開設しました。

その中で中心となります浄霊体験を広く信徒の皆様から募集します。特に身近な体験談、たとえば肩こり片頭痛、ストレス・不安感など大歓迎です。千差万別の悩みに寄り添う為にも多くの皆様の体験談が必要です。どうぞ数居の高い『神成』と違い、かしこまらずにペンをお取り下さい。

残念なことには浄霊の素晴らしさはまだ知られていません。

皆様の浄霊実体験そのものが救いの光教団の財産です。地道に目標を持って、浄霊の普及に取り組んで参りましょう。詳しくは各教会長、本部戸塚までお問い合わせください。

浄霊 (Johrei) 推進委員会

下北沢で
ご浄霊
ココロとカラダを整える

宗教法人
救いの光教団

<https://johrei-sukui.com>

トピックス

浄霊用簡易医療ベッド導入東京教会

東京教会では、様々な症状や身体機能に障害がある方に、負担が少なく効果的に浄霊をうけられるようにと高さが調整できる簡易医療ベッドを導入しました。

また、信徒さんの協力のもと、介護無しでは参拝が困難な方々を積極的に教会に送り届ける体制づくりに取り組んでいます。はるか昔から、ぜひ使用して下さいませ。